あびこの文化

発行人
美崎　大洋
我孫子市
高野山
250－23
04(7182)
0861

『我孫子の文化四十年の歩み』刊行

会長　美崎　大洋

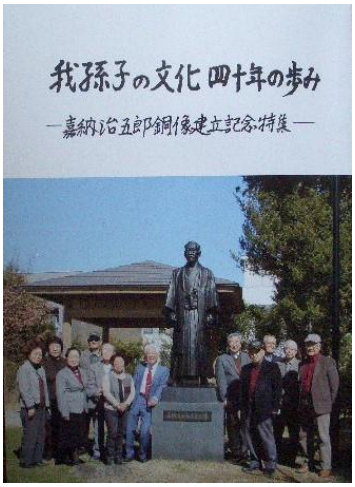
昨年の四月十五日に天神山緑地の嘉納別荘跡に嘉納治五郎師範の銅像が建って早くも一年が経過しました。当初、銅像建立は嘉納治五郎師範生誕百六十年、我孫子市制五十周年、さらに東京オリンピックの実施に合わせて計画されたものでした。生憎新型コロナウイルスの感染拡大によりオリンピックは延期となりました。また令和二年七月は当会が創立されて丁度四十年という節目にあたることから銅像建立とともに「四十年記念誌」刊行を計画していました。記念誌の刊行についてはその前年から会員の皆様にアナウンスもしていたことから一部の方は早くから原稿をお寄せ頂いていましたので記念誌の刊行を首を長くしてお待ち頂いていたのではないかと思います。当初年度中の刊行を予定していましたが、年度を越しての刊行となってしまいました。

記念誌の内容について若干触れますと、先に刊行した三十周年記念誌に続き、その後の十年間を中心に編集し、その間の当会の活動を改めて記録しました。ページ数は三十年誌より約五十ページも増えています。また従来の記念誌と大きく異なる点は巻頭に十ページのグラビアページを設けたことです。銅像建立までの経緯を文章だけでなくカラー写真でも見ていただくために採用しました。またカラーページの一部に銅像建立に対する寄附者全員のお名前も載せました。これは銅像台座の銘板と全く同じ内容ですが、記念誌では文字が小さく、個別の名前を探すのには少しご苦労があるかもしれません。本文は第一章を「嘉納治五郎先生銅像建立」とし、銅像建立関係記事が約三分の一を占めています。第二章は「研究論文・随想など」で、ここには従来の記念誌にはなかったことですが、会員外の方々からの寄稿文(主に銅像建立にご協力頂いた方)も掲載しました。第三章は「プロジェクト活動」、第四章「この十年の歩み」の構成です。

お忙しい中、本誌に御祝辞を賜りました星野順一郎我孫子市長、丸智彦我孫子市教育委員会教育長、また玉稿をお寄せいただいた皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。

郷土・地域の歴史がその地の文化を育むということを考えると、我孫子市の文化は郷土を愛し、真面目でかつ謙虚な姿勢で取り組んだ先人たちの活動の歴史の積み重ねと言えます。当会は昭和五十五年七月に創立されて以来、会員及び多くの市民の皆様のご理解とご支援に支えられて参りましたが、当会の先輩を始めとする歴代の会員の研究や活動の歴史が我孫子市の文化の発展の一翼を担ったのではないかと自負しております。これからも郷土・地域の歴史や文化を調査し、学ぼうとする人びとの活動を支援し未来につなげることが当会の重要な役割であり課題と言えます。今後も微力ながら我孫子の歴史文化遺産を守り、地域の文化の発展に努めて参りたいと思います。

十年前の「三十年誌」刊行の際は丁度東日本大震災発生の直後でした。今回もコロナ禍の終息が不透明の中での刊行になりました。日本中が何となく不安で暗い雰囲気の中、本誌が少しでも皆様の何かのお役に立つことができれば幸いです。また将来、本誌を繙く際に「あのコロナ騒ぎがあった時にできた記念誌だ」などと思い出すことがあるのではないでしょうか。



(「我孫子の文化四十年の歩み」の表紙)

今年度の総会については我孫子市が「まん延防止等重点措置」を実施する区域に追加指定されたことを踏まえ開催するかどうかについて検討中です。早急に役員会で協議し決定の上お知らせしたいと思います。左記は市の対策臨時本部会議の内容。

我孫子市では4月24日に市の新型コロナウイルス感染症対策臨時本部会議が開催されました。会議において決定した対策・対応の概要は以下の通りです。

【臨時本部会議において決定した対策・対応】

(1)まん延防止等重点措置を実施すべき区域の追加指定について

○期間:4月28日(水)から5月11日(火)

○追加自治体:我孫子市、千葉市、習志野市、八千代市、鎌ケ谷市、野田市、流山市

(2)飲食店への要請について

飲食店等の営業時間は、県からの要請を踏まえ、午後8時から午前5時は営業しないこと。また、酒類を提供しないことを要請します。

(3)施設等の利用制限について

各施設の利用については次のとおりとします。

1. 近隣センター・市民センター:午後5時閉館
2. あびこ市民活動ステーション:午後8時閉館
3. あびこ市民プラザ:午後5時閉館
4. 我孫子地区公民館・湖北地区公民館:午後6時閉館

(以下省略)

『我孫子の文化四十年の歩み』について

仕様　①サイズ　B5サイズ
②グラビアカラー　10ページ
③本文　330ページ

発行部数　800冊、定価　1，200円

販売　①我孫子市内書店にて
②クチコミ、紹介による

配布　①会員には1冊無料で配布
②会員で追加部数希望者に1，000円／1冊(送料含む)で配布

追加部数の申し込み方法は本会報の8ページをご覧ください。

（緊急掲載）
各地の七福神巡り（2回目）
（ぶらぶら敬天愛人＝ブログのタイトル）

佐々木 侑

（前回のまえがきの一部）

「・・・会報に「各地の七福神巡り」と題してブログから抜粋した記事を臨時に掲載をさせて頂きます（紙面の都合で写真は省略したものもあります）。近場の七福神巡りですので、コロナ禍の中でウイルスに負けないよう、散歩がてらに『福』を探しに、ご自分に合った七福神を探しに出かけてはいかがでしょうか。」

2013年1月 8日（火）

『浅草七福神巡り』と周辺見廻り

2013年、正月元旦から例年になく寒い日がつづいていると感じるのは又一つ歳を重ね、冥土への道が近くなった事かと諦めざるを得ないのだろうか？

晦日から家人達は新型インフルエンザとかで総崩れで、日頃からの「敬天愛人」に対する恨み辛みが一気に吹き出し、何やれ！かにやれ！と寝室からの要求がキツイ。ようやく、1週間経ち小康状態らしく這い蹲って動き始めたのを見定め、これ幸いと見廻りに出ることが出来たのが、平成25年1月6日である。

旧山の会脱落者寄せ集め連合の仲間が集まり少しでも長生きが出来るよう、三途の川も金次第で金品に困らぬよう、足腰くたばらず残り生き様の楽しみを追求できるようにと「浅草名所七福神」詣にでかけた。

まあ何と、虫のよい話には人はこうも群がりご利益を求めるのか、楽しい仲間は一大集団と相成った次第。

行程は「浅草寺影向堂の大黒天」→「浅草神社の恵比須」→「待乳山聖天の毘沙門天」→「今戸神社の福禄寿」→「橋場不動尊の布袋尊」→「石浜神社の寿老神」→「吉原神社の弁財天」→「鷲神社の寿老人」→「矢先神社の福禄寿」まで。

その後自然解散で→どぜうの飯田屋→蛇骨湯→帰路。

歩数:19,000 歩、 行動時間:4時間（移動時間は約2時間）

歩行行程での特記事項（都内でも有名な七福神巡りであるので、寄り道・外れ道を特記する）を記載。

＊浅草寺雷門大提灯台座の龍彫物

雷門は正式名は風神雷神門（風雷神門）と云うが、何時頃からか何故か雷さまの「雷門」と呼ばれるようになった。江戸人は短く詰めて云うのが好きなようだ。

この総門は商売の神様「松下幸之助翁」が浅草観音さまに祈願したところ病気平癒したのでその報恩のため昭和35年（1960）に寄進したもの。

大提灯は松下電器産業㈱（現パナソニック社）が寄贈したもので、その台座の底に金玉を持った龍が彫り込められている。覗き見をお勧めする。

＊浅草神社（三社さま）の恵比須さまは七福神の中で只御一人の日本人（日本生まれ）の神様ですぞ！浅草寺の観音さま同様に秘仏で見ることかなわず。

浅草寺や浅草神社にお詣りしてその後の楽しみは「観音うら、奥浅草」と呼ばれた花街（かがい）でのお遊びだったようだ。

ちなみに東京の花柳界（かりゅうかい）は、東京六花街で構成され芸者さんなどが300人頑張っているそうである。

東京六花街とは、新橋（銀座8丁目辺り・安政4年頃から）、赤坂（溜池辺り・官僚政界御用達）、神楽坂（石畳の小路に風情）、浅草（猿若町・山谷堀・広小路）、芳町（浜町付近・川上貞奴で浮名）、向島（向島5丁目辺り・下町風情）を云う。

忘れてならないのが、八王子（甲州街道沿い・○○姉さん頑張ってるかな？）。個人的に好きなのは渋谷円山町・品川大井海岸。

花街の流れは、客が料亭にいつなん人でと連絡、料亭は見番に予約、見番から芸者を置屋に手配、当日、立ち方（踊り）地方（三味線）が見参するとなる。

お座敷は料理とお酒と会話に踊り、おまけがゲーム遊びで2～3時間。ちなみに男衆は芸者さんのお手伝いで「箱屋」というが立派なお勤め。

浅草見番（三業会館）の見廻り

＊待乳山聖天の三等三角点

聖天さま本堂の向かって右裏辺りの踏石ではみ出している平らな石が三角点を表示している。この石の下に三角点標石が埋まっている。

待乳山は標高9，8mで都内ではれっきとした山であり江戸の時代は見晴が良く、富士山・筑波山の眺望が素晴らしかったはず、今はスカイツリーか。

ちなみに都内の三角点は新橋・南千住・愛宕山・江戸城天守台などにある。

＊神社の鳥居の形

神社の鳥居の形では大きく分けて二通りある。明神(みょうじん)鳥居と神明(しんめい)鳥居である。《明神型》は2本の柱の上部に水平材の「笠木」を載せ外に向かって両脇を反り上がらせている。上から二本目の横木を「貫(ぬき)」と云うが、柱の外に飛び出している。《神明型》は「笠木」に反りがなく「貫」は柱の外へ貫通していない。伊勢神宮型ともいうようで見た目から素朴である。

七福神神社では今戸神社・吉原神社・鷲神社・矢先神社は《明神型》で、それ以外の浅草神社・石浜神社が《神明型》である。どちらも寄進者の好みによるところが多く、祭神さまとは関連しないようである。

★☆今戸神社

☆★石浜神社

浅草七福神は九社を巡る見廻りであるが、九社にした理由は後からこじつけた様で「九は鳩であり皆が集まる意味を持ち、天地の至数であり、易では陽を表す」のだそうな。

無事、見廻りを終わり、西浅草の「どぜうの飯田屋」でどぜう定食(2，100円)と熱燗3本(1，800円)で締めくくり、近場の「蛇骨温泉」で入浴(450円)さっぱり。

2014年1月9日（木）
『深川七福神』の見廻り

平成26年正月、1月8日(水)。午年正月に年が改まって暫くは、それなりに寒さは厳しいけれども快晴の毎日が続いていたのだが、8日の天気予報は「曇りのち雨」。前からの計画で、モノ好きな老年男女の見廻り随伴者は27人にも膨れ上がった。この日の見廻りを首を長くして楽しみにしている様子であり、雨など降ろうものなら卒倒する御方もあらむやと敬天愛人のsa-sanは悩みしきりであった。

旧知のことは知らねど老い先短くなったこの頃は、人に憎まれる事なく平穏に過ごされむ御方々の思いが天に届いたか、見廻り中は晴天が続き杞憂・懸念の思いもなしであったのに「曇りのち雨」とは。

本日の行程

門前仲町→成田山深川不動堂 10:00→富岡八幡宮(恵比寿)→冬木弁天堂(弁財天)→法乗院閻魔堂→心行寺(福禄寿)→本立院間宮林蔵碑→円珠院(大黒天)→龍光院(毘沙門天)→霊厳寺の六地蔵→深川稲荷神社(布袋尊)→北の海部屋→万年橋→芭蕉稲荷→深川神明宮(寿老人)12:25→ (深川めし)割烹みやこ 12:30～14:00→清澄庭園散策→清澄白河駅

① 深川七福神の恵比須神がお祀されている富岡八幡宮は、寛永四年(1627年)に創建された。江戸最大の八幡さまで、「深川の八幡様」として親しまれている。

恵比須神は、富岡八幡宮境内の西側にある恵比須宮に奉祀されている。

エビス神は、イザナギノミコトの第三子にあたる蛭子尊であり、全国のエビス信仰の中心は兵庫県西宮市の西宮神社。エビス神は烏帽子をかぶり、狩衣を着て、右手に釣竿を持ち、左手に鯛を抱き、岩の上に座った姿をしている。航海安全の神として信仰され、商売繁盛の神としても信仰されるようになった。エビス顔といわれるように、笑顔愛敬、和顔愛語の福徳を人に授け、かつ富財の神として信仰され、また釣り関係の人々の信仰もさかんである。

一月十日を初えびす十日戎、九日を宵戎、十一日を残り戎と呼ぶ。

② 冬木弁天は、木場の材木豪商冬木弥平次が宝永二年(1705年)茅場町から深川に屋敷を移転した際、邸内の大きな池のほとりに、竹生島から移した弁財天を安置した。

弁財天は、インド名をサラスバティという川の神が、音楽の神、芸術の神、仏教の神となり、才智弁舌の神とされた。わが国では、弁才天より弁財天として、財宝の神として信仰されるようになり、商売繁盛を授け、芸道音楽の仏神と位置づけられ、蛇が神使とされてきた。江の島、竹生島、厳島の弁財天が、昔から有名である。冬木弁天堂は、古義真言宗に属してる。

③ 心行寺は、元和二年(1616年)京橋八丁堀寺町に創立された浄土宗の寺で、寛永十年(1633年)現在地深川寺町に移った由緒ある名刹である。

福禄寿は、心行寺の六角堂に安置されている。

福禄寿は、星宿の神、南十字星の化身ともいわれて、長寿をつかさどる人望福徳の福神である。背たけが低く、頭がきわめて長く、白髭童顔の姿をし、年齢数千年といわれ、長命の鳥・鶴を従え長命と円満な人格を人々に授ける福神である。

また福(幸福)と禄(財)と寿(長命)の三つの福徳を授ける神ともいわれてきた。

④ 円珠院は、日蓮宗の寺院。円珠院に安置されているのは、仏神の大黒天。招福の神であり笑顔の姿で台所財宝糧食をつかさどる。大黒天信仰には二つの流れがある。一つは大国主命とする流れで、これは多く神社に祀られている。もう一つは、インド名をマハカーラという仏神の大黒天で寺院に祀られている。

大黒は大国に通じ、大国主命に結合して福神の形となり、烏帽子狩衣をつけ、右手に小槌をかざし、左手に大きな袋をかつぎ米俵の上に座すようになった。財宝糧食を蔵していることをあらわし人々に財宝を授ける福神である。米俵に縁のあるところから、鼠は大黒天の神使になっている。

⑤ 龍光院は、浄土宗雲光院の塔頭寺院で、慶長十六年(1611年)馬喰町(中央区)に創立、天和二年(1682年)の大火に焼失し、深川の地に移転した。昭和十一年には境内に毘沙門堂が建立された。昭和二十年、戦災で焼失したが復興し、昭和五十年、木彫の立派な毘沙門天が安置された。

毘沙門天はその福徳の名声が遠く十方に聞こえることから多聞天と訳され、また財を授けることから施財天ともいわれる。その姿は、身に甲冑をつけ、左手に宝塔を捧げ、右手には三叉戟(三つまたの鎗)を持ち、忿怒の形相で邪鬼を踏みつけ毘沙門立ちをしている。

毘沙門天は武将の間に信仰され、中でも上杉謙信が毘沙門天を守護神としてあがめ「毘沙門の申し子」といわれ、志貴山の毘沙門天に祈願してうまれた楠正茂が幼名を多聞丸と名づけられたことなどは、あまりにも有名。

⑥ 布袋尊の祀られている深川稲荷神社は、寛永七年(1630年)の創立の古い神社。

この神社の裏の小名木川は、江戸時代初期から船の往来がはげしく、船の修繕、造船に携わる船大工が住み、旧町名は深川西大工町という。この神社は、無住社にして、町会によって管理運営されている。

布袋尊は、中国五代のころに実在した契此という高僧といわれている。大きな袋を持ち、これに食べ物や日常品を入れ、杖をたずさえ、大きな団扇を手にし、身体は低いが、腹は太鼓腹、半裸身、粗衣をまとい、常に笑顔、清貧にあまんじ、諸国を遊行し、子供と遊び、酒脱、楽天的な和尚として親しまれてきた。わが国に伝来し、清廉潔白、大気度量を人々に授ける福神として、禅画や置物までなって親しまれ、信仰されるようになった。

⑦ 寿老神は、深川神明宮の境内の寿老神社に安置されている。深川神明宮は、深川において創立の最も古い神社である。大阪摂津の深川八郎右衛門がこの付近に深川村を開拓し、その鎮守の宮として慶長元年(1596年)伊勢皇大神宮の御分霊をまつって創建した。

徳川家康がこの村に来て村名を尋ねたが、名がないので、深川八郎右衛門の姓をとって深川村と命名せよといわれた。

以来深川村が発展し、深川地区の各町に冠せられたりし、深川の地名のもとになった。

寿老神は寿老人とも書き、中国道教の神である。また中国の老子の化身の神ともいわれている。白髪長寿の老人の姿をして杖を手にし、杖には人命の長寿を記した巻物を吊し、長寿を司る寿老神の神使とされる鹿を伴っている。

寿老神は人に延命長寿の福徳を授ける福神として、信仰されてきた。

今回の七福神見廻りは、寺社のご本尊・御神体ではないが、寺社各所の七福神本体を具(ツブサ)に観察見廻りし、写真に収める探索であった。幸いにして正月期間であり、普段では拝顔できない七福神御大と直接謁(マミエル)ことが出来た。但し悲しいかな写真はうすらボケが多い。

予定通りに見廻りを終了し、雨にも降られず、深川めし本家「割烹みや古」で全員「深川めし御膳」で宴会。sa-san は当然に熱燗2合付きでほろ酔いのご機嫌。

「割烹みや古」の紹介

大正13年創業の下町の料理屋。日本五大銘飯の一つが当店の「深川めし」。関東風の味を守った日本料理。

＊東京都江東区常盤2-7-1　電話:03-3633-0385

我孫子第一小の児童が銅像を掃除

山口祐子(前)我孫子第一小学校校長から当会宛に児童が嘉納治五郎銅像の掃除をしてくれたとの大変嬉しい手紙が届きました。(左写真・文章)

嘉納治五郎先生　銅像を大切に！！　～我孫子第一小学校児童会　R3 年 3 月～

コロナ禍の中で教育活動が展開された令和 2 年度。休校、分散登校そして新しい生活様式の中での制限された学習。子ども達にとって経験したことがない苦戦の多い 1 年でした。3 月になってしまいましたが、児童会の5･6 年生が「治五郎先生の銅像を大切にする活動 1 回目」を行いました。歯ブラシと布を持参し、きれいに磨き上げました。我孫子市や我孫子第一小学校に縁の深い嘉納治五郎先生を一小っ子で守っていきたいと思います。

手賀沼遊歩道八重桜巡り

村上　智雅子

今年は気温が高く、桜の開花も手賀沼周辺では例年より一週間ほど早く、染井吉野は三月二十七日が満開日、八重桜は四月四日が満開日となりました。当日は八重桜も少し盛りを過ぎていたものの、御車返しも一葉も辛うじて見られ、十種類ほどの桜を堪能出来ました。

先ずは大橋から遊歩道に入ると右手にサーモンピンクの普賢像が五、六本、その名に相応しく流麗な花を見せてくれました。冬の間は立ち枯れていましたが、春になると精一杯健気に咲いている姿には心癒やされます。やがて左手に淡いピンク色の松月が葉の緑と映えて清雅に咲き、隣には濃いピンクの江戸が手毬のように華麗に花びらを広げていました。

中央のデッキ広場から十メートルばかりの所には、関山が濃い紅色の豊潤な花を咲き始めていました。ここで「大島桜は桜餅の葉の材料で、関山はお祝いの時の桜湯や桜アンパンの真ん中の桜の塩漬けの材料です」と言いますと皆さん、好奇心をそそられ納得なさいます。また、隣には咲き残りの薄紅色の御車返しが貝殻のような花びらを広げ、風に揺れてました。この花は手賀沼ではたった一本の珍しい愛らしい桜です。

後ろを振り返ると水の館側には、桜プロジェクトで植えられた緑色の桜の御衣黄が控え目に咲いています。この桜は昔の高貴な方の着た衣が黄色から緑色のものが多く、この名がついたといわれてます。隣には淡い花びらの樋口一葉の面影をしのばれるような一葉桜が、楚々と咲いていました。

釣り堀あたりを過ぎて間もなく、梅護寺数珠

掛桜が五、六本、葉陰に咲いています。この花の由来は、新潟県の梅護寺で親鸞上人が説法された折に、近くにあった桜の枝に御数珠を掛けられたところ、その木に数珠のような丸い蕾と花が咲いたと言われてます。葉と共に咲くので、豪華さはありませんが独特な花の咲き方を愛でる事が出来、趣のある桜でした。

当日(四月八日)の参加者は元近代文学講座から当会に入会された八人のうち五人の方及び希望者三人。一人の方は車椅子のため、ご主人様が付き添われての参加でした。お昼を過ぎましたので、水の館前まで戻り解散となりました。

手賀沼遊歩道の桜の魅力は、水辺の佇まいと多くの種類の桜を長い期間楽しめることにあります。今年は飲食を伴ったお花見は出来ませんでしたが、こうした花そのものを見て知り楽しむ桜散策は、なかなか有意義でした。皆さん、二人、三人と歓談しながら花を眺めて、和やかな親睦のひとときを愉しみました。

「それからのまさかど」

戸田　七支(かずゆき)

我孫子及びその周辺で何故将門に関する伝説が多く存在するのか？我孫子と将門はどんな関係があったのか？等々について拙論を述べて来た。我孫子は将門にとって故郷であり、このことが世間に広く知られていないのが現状である。しかし敢えて先へ進もうと思う。我孫子が将門の本拠地であるとの認識がなければ将門の死後、秀郷・貞盛軍による略奪と殲滅の惨劇を知ることが出来ない。日本の歴史において勝ち組によるこの種の行為が語られることはあまりないが、行為の存在は認めるところである。将門の乱に於いても柏の花の前古代製鉄所跡が乱の後、徹底的に破壊されていること、我孫子の龍泉寺が乱の後焼失していること、柏の布瀬明神(鳥見香取神社)が乱に係わって焼失した事、これらは将門の本拠地であった為に略奪の惨劇に見舞われたのである。そうしてキュウリを植えない、成田山へは参しない、桔梗を植えない、等詣々数々の伝説が生まれた。中でも将門神社草創の言い伝えは重い意味を伝えている。「公の戦死に遭うや主従の霊魂が布瀬明神下より騎馬にて手賀の海をわたり岡陵に登りて朝日を拝み処へ祠をたてた」と言う伝説である。この伝説の真意は将門の死後、敵軍に依る殲滅の惨劇を目の当たりにした村人が将門がいたらこんな酷い事にはならない。例え霊魂になっても戻って来てほしいとの願望がこの伝説を残した。一見荒唐無稽に思われるが、本拠地のみにある特異な伝説であり、村人の強い願望を現したものである。空を飛ぼうが水中に潜ろうが自在で許される。

今一つ我孫子本拠地説を示す記述が将門記にある。「…と書かれている。王城を下総国の亭南建つべし。兼て橡橋を以って号して京の山崎と為(ナ)す。相馬郡大井の津を以って京の大津と(セ)む。…」と書かれている。当然のことながらその場所に比定される所が我孫子市周辺に存在する。相馬郡将門亭の南へ王城を建てるべしとあるが、現在の湖北地区公民館(我孫子市中里1番地3号)が将門亭、居館の所在地と考える。その南500Mに旧湖北高校、相馬郡衙遺跡(我孫子市日秀40番地)がある。将門は関八州を制覇して敗死を遂げるまで3ケ月しかない。一時の王城としてここを選んだのではないか。次に橡橋を以って京の山崎と為(ナ)す。とあるが、相馬郡衙遺跡の岡陵の下に古代の港として機能したと思われる入江がある。荷物の搬入には港は無くてはならない設備である(我孫子市久保田164番地)。最後は相馬郡大井の津を以って京の大津と為(セ)む、と記しているが、ここは柏市大井(郵便番号279-0902)が比定される。大津川の河口のあたりであろう。此のあたりの人達は数百年の昔から将門記に書かれている大井の津とは此処の事であると信じている。そしてその周辺に王城と居館を求めているが、無理と言うものである。対岸にある我孫子市中里・日秀の居館と王城をリンクすることで大井の津が特定され、その真実性が確実なものとなろう。縷々と述べて参りましたが我孫子将門の本拠地、故郷であったこと了解いただけたでしょうか。

次に将門の人物像について考えてみましょう。これまでは謀反人、反逆者、狂暴な人物として伝えられていますが、実像は真逆な姿が見える。謀反の始まりとなる石岡の国府襲撃は、藤原玄明の要請により、新しく赴任してきた常陸介、藤原維幾との揉め事を調停する目的で出動したものが、弾みで予期しない展開となり、国の収容物を分配し修羅場となってしまったが、藤原維幾を殺害することは無かった。続いて下野、上野の国府を襲撃するが、国司は将門集団が来襲するや直ちに国印と鍵を差し出し将門も受取書を手交している。この様にして平和裏に権限の移譲を果たした。かくして瞬く間に関八州を掌握した。この間一切の戦闘行為をしていないのが分かる。そこには狂暴な反逆者としての将門はいない。しかし天慶二年十二月、朝廷より謀反人の烙印を押され、藤原秀郷・平貞盛軍と激しい戦闘状態となれば狂暴な将門が出現するのは当然である。不運にも天慶三年二月十四日、将門の頭部に流れ矢が当たり絶命する。

将門記は此のあたりで主要な記述は終わりとなるが、将門の本拠地我孫子の周辺は秀郷・貞盛軍に依る略奪と殲滅の惨劇に見舞われる。将門の主要な武将達は悉く逃亡先で斬殺された。秩父の山中に隠れていた逃亡者99人が殺害されたと言う伝説がある。これは婦女子を含む全員が殺害されたと言うことであろう。本拠地の我孫子周辺ではどんな酷いことが起こったか容易に想像される。将門が平和裏に関八州を手中に収めた時と大きな違いである。

近頃我孫子では「将門の本拠地我孫子」を核にして街おこしをしようとする動きがある。そこで生まれたのが「将門ビール」「将門餅」である。それを頂く時には将門を始め乱で命を失った多くの犠牲者に鎮魂の祈りを捧げて欲しい。味も一層深いものとなろう。最近将門神社の宮司さんも驚くほど、参詣者が増えているそうである。マスコミにも取り上げられて、世間の注目が集まったと思えるが、将門神社周辺の岡陵地帯は大きなパワースポットあるのではないか。江戸城、神田明神、将門神社を結ぶと北東・艮(うしとら)の方角を指しており、鬼門を抑えている。更にその先には霊峰筑波山が座している。将門を始め多くの怨念がそこに留まっていても不思議ではない。成田山新勝寺、神田明神を凌ぐビックパワーがあるかもしれない。門前市をなす日を見るのも遠くない。（おわり）

あびこだより 95 号

「それからのまさかど」へのプロローグ

戸田七支(かずゆき)

将門にとりつかれてもう5年となろうか、私なりに一つの区切りがついたようなので、私の将門論を話して、皆様方のご批判を仰ぎたいと思います。

これまで我孫子で幾度も将門が論じられてきた。しかし何故我孫子で将門か、将門と我孫子にはどんな関係があるのか肝心な点について明確な答えがなかった。

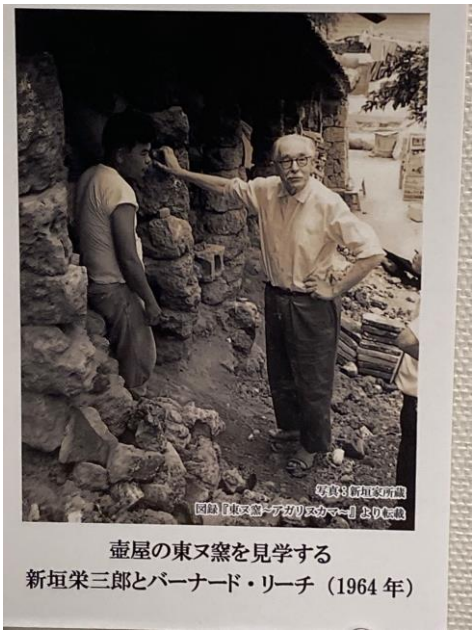
世の研究者達は1級資料「将門記」から研究をスタートしているが、将門記には前半部の1部が欠落していると明記されている。この部分に我孫子の将門が書かれていたのではないか。結論を述べよう。我孫子は将門の本拠地、居住地、故郷であると言うことである。だから多くの伝説、遺跡が残っている。これについて貴重な記述が将門記にある。「其記文に曰く、王城を下総国の亭南に建つべし。兼て犠橋を以って京の山崎と為、相馬郡大井の津を以って京の大津と為(セ)む。」とあり、それに比定される場所が我孫子市中里、日秀、柏市の大井地区に歴然と存在している。茨城県南西部にそれを求めているがある訳がない。将門の居館と王城が我孫子にあったことをご理解頂けたと思う。

また本拠地であったが故に将門の死後、略奪と殺人の惨劇が繰り広げられたことは言うまでもない。多くの犠牲者が出たことと思う。冥福を祈りたい。将門が関八州を制覇した時、石岡の国府の時を除いて、一切の戦闘行為は無く、平和裏に権限の移譲をみている。一方勝ち組の秀郷・貞盛軍の行った乱暴狼藉を問う声は無く、将門のみが謀反人の烙印をおされ歴史にその名を残された。怨霊の神となって祟りをなすのも理解できる。不思議なことに江戸城、神田明神、日秀の将門神社、将門の居館(コホミシ)は一本の線上にあり、北東の方角、鬼門に連なっている。神田明神、成田山新勝寺を凌ぐパワースポットとなっても不思議ではない。放談クラブでお会いするのを楽しみにしています。

会員からの情報

当会会員の吉澤淳一さんから情報提供のメールがありました。

「我孫子の景観を育てる会の会員からのレポートを、ご参考までにお送りします。会員の皆さんにお伝えいただければ幸甚です。」(写真(左)と育てる会会員からのメール(右下枠内))



壺屋の東ヌ窯を見学する
新垣栄三郎とバーナード・リーチ（1964 年）

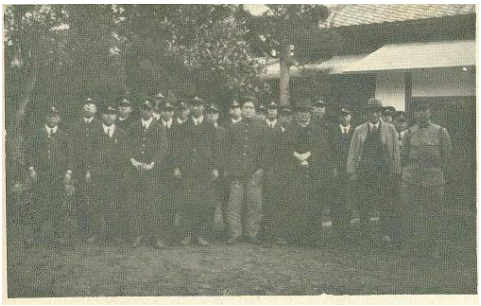
From: 宮内昭男 <a.miyauchi@me.com>
Sent: Saturday, April 3, 2021 4:26 PM
Subject: 柳　宗悦、バーナードリーチの足跡を見つけました

見つけた場所は、那覇市の焼物博物館です。
私は特別、焼物に興味はありませんが、多くの催し物が中止となる中、焼物博物館が無料となりシーサー展もやっているので、暇つぶしに行きました。
すると意外にも、柳宗悦、バーナードリーチ、濱田庄司、の沖縄において大活躍したことが展示されていました。(別添ご参照)
もっと驚いたのは、沖縄県が標準語を強制していることに対し、柳は反対して沖縄県と論争までしたとの論文もありました。
また、民藝運動が沖縄の壺焼き職人にプライドを持たせ、励みになったようです。
さらに戦前、沖縄の焼き物を収集して貴重な作品を残したとのことです。
戻りましたら、日本民芸館に行って見ようと思います。

宮内

講道館から別荘（臨湖閣）の写真を借用

講道館図書部のご好意により提供された写真により当時の様子が垣間見れる。



第二十八回短歌の会（最終採択の一首）

三月三十日実施

春の小川に優しきリズム思ひつつ
つい口ずさむ小学唱歌　藤川　綾乃

梅林にふき上げたりし蕗のたう
失せて酢和えと今年のにがみ　佐々木　侑

もう少しつややかに歌え恋のうた
水仙香る庭に立つ猫　納見　美恵子

お香焚き天空ゆらぐ煙の中に
今日の幸せよろこびとなす　飯高　美和子

悲しみや怒りばかりか愛までも
時は消しゆく残酷にして　美崎　大洋

四年目に河津桜の咲き揃ふドッヂボールは
声たけなはに　村上　智雅子

妻と来て手賀沼の畔に足を止め
水鳥集う水面を見つむ　芦崎　敬己

葉を落し楚々（そそ）たる冬木例ふれば
清しく生きし男の晩年　伊奈野　道子

學校の帰りに橋の欄干をとび降り
落下傘まねたる日あり　三谷　和夫

外出をためらふ庭に大輪の
椿ぽとりと花首おとす　大島　光子

志賀直哉邸跡の「ハクオトメ」

当会が創立20周年の記念として植樹した椿「ハクオトメ」（白乙女）がツボミを付け、4輪、白い花をつけた（4月30日現在、写真）。植樹から20年経つにしては幹の育ちが悪いと一部で言われており、周りの樹木の影響または陽当たりの関係ではないかとも思われる。いずれにしても市の所有地であり、周りの樹木の葉や枝を勝手に切り落とすことも、また別の場所に移植もできず、現在市の公園緑地課に対応を相談している。

□「放談くらぶ」
日時　6月5日(土) 14時～16時
会場　我孫子北近隣センター（並木）第2・第3会議室
講師　戸田七支氏（当会役員）
演題　「それからのまさかど」へのプロローグ
（7ページ「あびこだより95号」参照ください）
◎参加費、会員無料、非会員三〇〇円（定員35名）
申込みTEL&FAX七一八五）〇六七五　佐々木まで

□ **プロジェクト「短歌の会」予定**
第二十九回短歌の会
日時　5月25日(火) 13時30分～
場所　けやきプラザ10階小会議室

□ **美手連総会**
日時　6月19日(土) 10時～
場所　水の館会議室

□**あびこ市民活動ネットワーク総会**
日時　5月28日(金) 14時～
場所　けやきプラザ7階（介護研修室）

□**白樺文学館の展示情報**
企画展示と「白樺派と我孫子」、「民藝運動と我孫子」という2つのテーマ展示を交互に開催。
期間　3月3日(水)から6月27日(日)
常設テーマ「白樺派と我孫子2021」前期
内容　今年は白樺文学館が開館して20年、志賀直哉没後50年となります。コレクション展としての常設テーマ「白樺派と我孫子」、今回は旧白樺文学館所蔵資料を中心に展示します。

『我孫子の文化四十年のあゆみ』
追加部数の申し込み方法について

連絡方法（メールまたは電話）
メール
mss_misaki@yahoo.co.jp
TEL　080-3410-4426
04-7182-0861
お名前（振込者名）を明示の上、必要部数の金額を下記口座にお振込みください。

振込先
（金融機関）**ゆうちょ銀行**
（店名）**ゼロゴハチ（〇五八）**
（店番）**058**　（預金種目）**普通預金**
（口座番号）**4589211**
（口座名）**ミサキ　タイヨウ**

編集後記　今回の会報に当会に関係する2件の情報提供について掲載した。うち1件は3月に定年となられた山口祐子前我孫子第一小校長からの治五郎像の掃除に関する情報。治五郎に縁のある第一小では市内の他の小学校とは異なり治五郎についての特別な教育を行っていると聞いている。山口前校長からは「次の校長先生に銅像の掃除について伝える」とのコメントも頂いている▲コロナ第4波は感染力の強い変異株への置き換わりが急速に進み、歯止めがかからない。感染情報も毎日ネットで見られるが、「感染経路不明」、「行動歴発表無し」が多い。プライバシーを考慮した結果と思うが、「見えない敵」と戦う我々の行動の参考にならない。プライバシーを犠牲にすることで感染拡大を防いだ国もあるが、プライバシーの損失と、統制の強化はトレードオフの関係だ▲「いつまで続くぬかるみぞ」の感強し。（美崎）

当会のホームページ　http://abikonobunka.sakura.ne.jp/